

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポーションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでもいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.9.13-19

BUT GROW IN THE GRACE AND KNOWLEDGE OF OUR LORD AND SAVIOR JESUS CHRIST. TO HIM BE GLORY BOTH NOW AND FOREVER! AMEN. II PETER

LTG ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



18:14 そのとき、あのライシュの地を偵察に行った五人の者は、その身内の者たちに告げて言った。「これらの建物の中にエポデやテラフィム、彫像や鑄像があるのを知っているか。今あなたがたは何をなすべきかを知りなさい。」

15 そこで、彼らは、そちらのほうに行き、あのレビ人の若者の家ミカの家に来て、彼の安否を尋ねた。

16 武具を身に着けた六百人のダンの人々は、門の入口のところに立っていた。

17 あの地を偵察に行った五人の者は上って行き、そこに入り、彫像とエポデとテラフィムと鑄像を取った。祭司は武具を身に着けた六百人の者と、門の入口のところに立っていた。

18 五人の者がミカの家に入り、彫像とエポデとテラフィムと鑄像を取った。そのとき祭司は彼らに言った。「あなたがたは何をしているのか。」

19 彼らは祭司に言った。「黙っててください。あなたの手を口に当てて、私たちといっしょに来て、私たちのために父となり、また祭司となってください。あなたはひとりの家の祭司になると、イスラエルで部族または氏族の祭司になると、どちらがよいですか。」

20 祭司の心はずんだ。彼はエポデとテラフィムと彫像を取り、この人々の中に入って行った。

21 そこで、彼らは子どもや家畜や貴重品を先にして引き返して行った。

22 彼らがミカの家からかなり離れると、ミカは家の近くの家にいた人々を集め、ダ

ン族に追いついた。

23 彼らがダン族に呼びかけたとき、彼らは振り向いて、ミカに言った。「あなたは、どうしたのだ。人を集めたりして。」

24 すると、ミカは言った。「あなたがたは私の造った神々と、それに祭司とを取って行った。私のところには何が残っていますか。私に向かって『どうしたのだ』と言うのは、いったい何事です。」

25 そこで、ダン族はミカに言った。「あなたの声私たちの中で聞こえないようにせよ。でなければ、気の荒い連中があなたがたに撃ちかかろう。あなたは、自分のいのちも、家族のいのちも失おう。」

26 こうして、ダン族は去って行った。ミカは、彼らが自分よりも強いのを見てとり、向きを変えて、自分の家に帰った。

27 彼らは、ミカが造ったものと、ミカの祭司とを取って、ライシュに行き、平穏で安心して暮らしている民を襲い、剣の刃で彼らを打ち、火でその町を焼いた。

28 その町はシドンから遠く離れており、そのうえ、だれとも交渉がなかったので、救い出す者がいなかった。その町はベテ・レホブの近くの谷にあった。彼らは町を建てて、そこに住んだ。

29 そして、彼らはイスラエルに生まれた自分たちの先祖ダンの名にちなんで、その町にダンという名をつけた。その町もとの名はライシュであった。

30 さて、ダン族は自分たちのために彫像を立てた。モーゼの子ゲルショムの子ヨナタンとその子孫が、国の捕囚の日まで、ダン部族の祭司であった。

31 こうして、神の宮がシロにあった間中、

彼らはミカの造った彫像を自分たちのために立てた。

以前にミカが雇った二セ祭司によって良い予言してもらった偵察の者たちは、ミカの家から偶像を奪い、その二セ祭司を買収して連れて帰りました。ミカはそれに気づき後を追いますが、かなわないと悟り諦めました。それ以降ダン族は偶像と関わり続けました。

ミカは家の祝福のためにとはいえ神ならぬものを拝みましたが、結局それを失ってしまいました。神をないがしろにして得た幸いや安心はこのようなものです。

ダン族もまた主に従わないで将来と得ようとしたが、その結果、敵であるペリシテ人ではなく、「平穏で安心して暮らしている民」を不幸に陥れたのです。部族の名は黙示録の祝福かあは消されてしまいました。

祝福の源は主であることを明確にして、主から揺るぎない祝福をいただけるように、従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



19:1 イスラエルに王がなかった時代のこと、ひとりのレビ人が、エフライムの山地の奥に滞在していた。この人は、そばめとして、ユダのベツレヘムからひとりの女をめぐらした。

2 ところが、そのそばめは彼をきらって、彼のところを去り、ユダのベツレヘムの自分の父の家に行き、そこに四か月の間いた。

3 そこで、彼女の夫は、ねんごろに話をして彼女を引き戻すために、若い者と一くびきのろばを連れ、彼女のあとを追って出かけた。彼女の夫を自分の父の家に連れて入ったとき、娘の父は彼を見て、喜んで迎えた。

4 娘の父であるしゅうとが引き止めたので、彼は、しゅうとといっしょに三日間とどまった。こうして、彼らは食べたり飲んだりして、夜を過ごした。

5 四日目になって朝早く、彼は出かけようとして立ち上がった。すると、娘の父は婿に言った。「少し食事をして元気をつけ、そのあとで出かけなさい。」

6 それで、彼らふたりは、すわって共に食べたり飲んだりした。娘の父はその人に言った。「どうぞ、もう一晩泊まることにして、楽しみなさい。」

7 その人が出かけようとして立ち上がると、しゅうとが彼にしきりに勧めたので、彼はまたそこに泊まって一夜を明かした。

8 五日目の朝早く、彼が出かけようとする、娘の父は言った。「どうぞ、元気をつけて、日が傾くまで、ゆっくりしていなさい。」そこで、彼らふたりは食事をした。

9 それから、その人が自分のそばめと、若い者を連れて、出かけようすると、娘の父

であるしゅうとは彼に言った。「ご覧なさい。もう日が暮れかかっています。どうぞ、もう一晩お泊まりなさい。もう日も傾いています。ここに泊まって、楽しみなさい。あすの朝早く旅立って、家に帰ればいいでしょう。」

10 その人は泊まりたくなかったので、立ち上がって出て行き、エブスすなわちエルサレムの向かい側にやって来た。鞍をつけた一くびきのろばと彼のそばめとが、いっしょだった。

11 彼らがエブスの近くに来たとき、日は非常に低くなっていた。それで、若い者は主人に言った。「さあ、このエブス人の町に寄り道して、そこで一夜を明かしましょう。」

12 すると、彼の主人は言った。「私たちは、イスラエル人ではない外国人の町には立ち寄らない。さあ、ギブアまで進もう。」

13 それから、彼は若い者に言った。「さあ、ギブアからマのどちらかの地に着いて、そこで一夜を明かそう。」

14 こうして、彼らは進んで行った。彼らがベニヤミンに属するギブアの近くに来たとき、日は沈んだ。

15 彼らはギブアに行つて泊まろうとして、そこに立ち寄り、町に入って行って、広場に座った。だれも彼らを迎えて家に泊めてくれる者がいなかったからである。

レビ人が妻以外にそばめをめぐりましたが、彼女はこのレビ人をきらって、父の家に帰ります。レビ人は彼女を連れ戻そうとその家に滞在し、帰り道にギブアに来ますが泊まる場所がありませんでした。

レビ人は幕屋で神に仕えるために召された家系です。にも関わらず間違つた結婚関係を結び、快楽に負けていつまでもそばめの家に滞在したこと、後の醜悪極まりない事件と戦争が生まれることになってしまいました。

神様の御心に反することは、そのときは「小さなこと」と安易に考えるのですが、実は恐ろしい罪や争いに発展するのだということ、この記事は教えています。

新約の祭司であり神に仕える私たちは、その点を心に留めつつ、しかし失敗があつたときは主の憐れみと愛に依り頼みつつ悔い改めていきましょう。間違いを認めないで自分を正当化して、自分を押し通すのが最もいけないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



19:16 そこへ、夕暮れになって野ら仕事から帰ったひとりの老人がやって来た。この人はエフライムの山地の人で、ギブアに滞在していた。この土地の者たちはベニヤミン族であった。

17 目を上げて、町の広場にいる旅人を見たとき、この老人は、「どちらへおいですか。どちらからおいでになったのですか」と尋ねた。

18 そこで、その人は彼に言った。「私たちは、ユダのベツレヘムから、エフライムの山地の奥まで旅を続けているのです。私はその奥地の者です。ユダのベツレヘムまで行って来ました。今、主の宮へ帰る途中ですが、だれも私を家に迎えてくれる者がありません。

19 私たちをのろばのためには、わらも飼葉もあり、また、私と、妻と、私たちといっしょにいる若い者とのためにはパンも酒もあります。足りないものは何もありません。」

20 すると、この老人は言った。「安心なさい。ただ、足りないものはみな、私に任せ。ただ広場では夜を過ごさないでください。」

21 こうして彼は、この人を自分の家に連れて行き、ろばに、まぐさをやった。彼らは足を洗って、食べたり飲んだりした。

22 彼らが楽しんでいると、町の者で、よこしまな者たちが、その家を取り囲んで、戸をたたき続けた。そして彼らは、その家の主人である老人に言った。「あなたの家に来たあの男を引き出せ。あの男を知りたい。」

23 そこで、家の主人であるその人は彼のところに出て行って言った。「いけない。兄弟たちよ。どうか悪いことはしないでくれ。この人が私の家に入って後に、そんな恥ずべきことはしないでくれ。

24 ここに処女の私の娘と、あの人のそばめがいる。今、ふたりを連れ出すから、彼らをはずかしめて、あなたがたの好きなようにしなさい。あの人には、そのような恥ずべきことはしないでくれ。

25 しかし、人々は彼に聞こうとしなかった。そこで、その人は自分のそばめをつかんで、外の彼らのところへ出した。すると、彼らは彼女を犯して、夜通し、朝まで暴行を加え、夜が明けかかるころ彼女を放した。

26 夜明け前に、その女は自分の主人のいるその人の家の戸口に来て倒れ、明るくなるまでそこにいた。

27 その女の主人は、朝になって起き、家の戸を開いて、旅に出ようとして外に出た。見ると、そこに自分のそばめであるその女が、手を敷居にかけて、家の入口に倒れていた。

28 それで、彼はその女に、「立ちなさい。行こう。」と言ったが、何の返事もなかった。それで、その人は彼女をろばに乗せ、立って自分の所へ向かって行った。

29 彼は自分の家に着くと、刀を取り、自分のそばめをつかんで、その死体を十二の部分に分けて、イスラエルの国中に送った。

30 それを見た者はみな言った。「イスラエル人がエジプトの地から上って来た日から今日まで、こんなことは起こったこともなければ、見たこともない。このことをよく考えて、相談をし、意見を述べよ。」

聖書の中でも最悪な出来事のひとつがここに記されています。現代社会でも醜く残酷な出来事が後をたたく、様々な報道を見聞きしますが、神様はそのような現実から目をそらすことがないのです。

この一連の出来事は、イスラエルの歴史で実際にあった、ベニヤミン族と残りのイスラエルとの戦いについて記し、その原因についても言及しているのです。人間の愚かさ、残酷さが表れています。

この老人は親切ではありましたが、娘を差し出すとは全く本末転倒な解決方法です。またそばめの夫も女性の安全を気にかけていないようすがわかります。さらには遺体を切り刻むということで告発するのは、非人間的であるばかりか、神の律法を全く無視したやり方です。

士師記のテーマのように、神を無視して自分の判断で歩み続けるときに、人間はどこまで墮落するのがよく理解できます。私たちは常に警戒を怠らずに、主のみこころに従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





- 20:1 そこで、ダンからベエル・シェバ、およびギルアデの地に至るイスラエル人はみな、出て来て、その会衆は、こぞってミツパの主のところに集まった。
- 2 イスラエルの全部族、民全体のかしらたち、四十万の剣を使う歩兵が神の民の前に集まりに出た。
- 3 ベニヤミン族は、イスラエル人がミツパに上って来たことを聞いたイスラエル人は、「こんな悪い事がどうして起こったのか、話してください」と言った。
- 4 殺された女の夫であるレビ人は答えて言った。「私は、そばめといっしょに、ベニヤミンに属するギブアに行き、一夜を明かそうとしました。
- 5 すると、ギブアの者たちは私を襲い、夜中に私のいる家を取り囲み、私を殺そうと計りましたが、彼らは私のそばめに暴行を加えました。それで彼女は死にました。
- 6 それで私は、そばめをつかみ、彼女を切り分け、それをイスラエルの相続地の全地に送りました。これは、彼らがイスラエルの中で、みだらな恥ずべきことを行ったからです。
- 7 さあ、あなたがたイスラエル人のすべてよ。今ここで、意見を述べて、相談してください。」
- 8 そこで、民はみな、こぞって立ち上がった。言った。「私たちは、だれも自分の天幕に帰らない。だれも自分の家に戻らない。
- 9 今、私たちがギブアに対してしようとしていることはこうだ。くじを引いて、攻め上ろう。
- 10 私たちは、イスラエルの全部族について、

百人につき十人、千人につき百人、一万人につき千人をとって、民のための糧食を持って行かせ、民がベニヤミンのギブアに行つて、ベニヤミンがイスラエルでしたこのすべての恥ずべき行いに対して、報復させよう。」

11 こうして、イスラエル人はみな団結し、こぞってその町に集まって来た。

12 それから、イスラエルの諸部族は、ベニヤミンの諸族のすべてに人をやって言わせた。「あなたがたのうちに起こったあの悪い事は、何ということか。

13 今、ギブアにいるあのよこしまな者たちを渡せ、彼らを子として、イスラエルから悪を除き去ろう。」ベニヤミン族は、自分たちの同族イスラエル人の言うことに聞き従おうとしなかった。

14 それどころか、ベニヤミン族は町々からギブアに集まり、イスラエル人との戦いに出て行こうとした。

15 その日、ベニヤミン族は、町々から二万六千人の剣を使う者を召集した。そのほかにギブアの住民のうちから七百人の精鋭を召集した。

16 この民全体のうちに、左ききの精鋭が七百人いた。彼らはみな、一本の毛をねらつて石を投げて、失敗することがなかった。

妻以外の女性をめとり、暴行されるために差出し、一晩放つておいて動かない状態なのに「さあ行こう」などと声をかけ、死んでいるのを知ると遺体を切り分けて告発のために使う…。この男性はまともな人格とは思えませんが、彼のことはによって全イスラエルは正義感に燃えて一致します。この奇妙な連帯感の中には「神様のみこころを

聞く」ということがありません。全くの人間だけの感じ方、正義感、連帯感、同情心なので。リーダーから民の隅々にいたるまで、主に祈つて主に聞かなければ、人間はどこまでも間違つたまま進んでしまうという実例です。

ディボーションという名でも、祈り込みでも、聖書通読でも構いません。日々主のことは聞いて、実際の自分の言動を正しいものにしていただいて、歩んでいきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





17 イスラエル人は、ベニヤミンを除いて、剣を使う者四十万人を招集した。彼らはみな、戦士であった。

18 イスラエル人は立ち上がって、ベテルに上り、神に伺って言った。「私たちのために、だれが最初に上って行って、ベニヤミン族と戦うのでしょうか。」すると、主は仰せられた。「ユダが最初だ。」

19 朝になると、イスラエル人は立ち上がり、ギブアに対して陣を敷いた。

20 イスラエル人はベニヤミンとの戦いに出て行った。そのとき、イスラエル人はギブアで彼らと戦うための陣ぞなえをした。

21 ベニヤミン族はギブアから出て来て、その日、イスラエル人二万二千人をその場で殺した。

22 しかし、この民、イスラエル人は奮い立って、初めの日に陣を敷いた場所で、再び戦いの備えをした。

23 そしてイスラエル人は上って行って、主の前で夕方まで泣き、主に伺って言った。「私は再び、私の兄弟ベニヤミン族に近づいて戦うべきでしょうか。」すると、主は仰せられた。「攻め上れ。」

24 そこで、イスラエル人は次の日、ベニヤミン族に攻め寄せたが、

25 ベニヤミンも次の日、ギブアから出て来て、彼らを迎え撃ち、再びイスラエル人のうち一万八千人をその場で殺した。これらの者はみな、剣を使う者であった。

26 それで、すべてのイスラエル人は、全民こぞってベテルに上って行って、泣き、その所で主の前にすわり、その日は、夕方まで断食をし、全焼のいけにえと和解のいけ

にえを主の前にささげた。

27 そして、イスラエル人は主に伺い、一当時、神の契約の箱はそこにあった。

28 当時、アロンの子エルアザルの子ピネハスが、御前に仕えていた一そして言った。

「私はまた、出て行って、私の兄弟ベニヤミン族と戦うべきでしょうか。それとも、やめるべきでしょうか。」主は仰せられた。

「攻め上れ。あず、彼らをあなたがたの手に渡す。」

イスラエルは自分たちで戦うと決めて、攻撃をしかけましたが、結局ベニヤミン族に痛手を被り、そこではじめて主に「戦うべきでしょうか」と、伺いを立てました。

主は行くように命じられましたが、またもイスラエルは敗北し、次には断食と全焼のいけにえをささげ、伺いを立てました。このときは主は「彼らをあなたがたの手に渡すと」約束してくださり、ベニヤミン族は敗北に向かいました。

伝道や愛を行うことなどは、「すべきでしょうか」というよりも、「どのように」と主に伺うべきですが、争いは別です。始めてしまってから主に聞くというのは信仰的とは言えません。ましてや雰囲気は踊らされて戦いに加わってしまう、全体がいつのまにか動かされてしまった…などという事態は避けなければなりません。

彼らは戦いがうまくいかなくて初めて主に聞きました。それでも聞かないよりは良いのであって、彼らの信仰の姿勢がだんだん整えられて、最後は献身を表す全焼のいけにえをささげました。

主に聞きましよう。もしもみこころか聞かずに初めてしまったら、途中からでも主に聞きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





29 そこで、イスラエルはギブアの回りに伏兵を置いた。

30 三日目にイスラエル人は、ベニヤミン族のところへ攻め上り、先のようにギブアに対して陣ぞなえをした。

31 すると、ベニヤミン族は、この民を迎え撃つために出て来た。彼らは町からおびき出された。彼らは、一つはベテルに、他の一つはギブアに上る大路上で、この前のようにこの民を打ち始め、イスラエル人約三十人を戦場で刺し殺した。

32 ベニヤミン族は、「彼らは最初のときのようにわれわれに打ち負かされる」と思った。イスラエル人は言った。「さあ、逃げよう。そして彼らを町から大路上におびき出そう。」

33 イスラエル人はみな、その持ち場を立ち、バアル・タマルで陣ぞなえをした。一方、イスラエルの伏兵たちは、自分たちの持ち場、マアレ・ゲバからおどり出た。

34 こうして、全イスラエルの精鋭一万人がギブアに向かってやって来た。戦いは激しかった。ベニヤミン族は、わざわざ自分たちに迫っているのに気がつかなかった。

20:35 こうして、主がイスラエルによってベニヤミンを打ったので、イスラエル人は、その日、ベニヤミンのうち二万五千百人を殺した。これらの者はみな、剣を使う者であった。

36 ベニヤミン族は、自分たちが打ち負かされたのを見た。イスラエル人がベニヤミンの前から退却したのは、ギブアに対して伏せていた伏兵を信頼したからであった。

37 伏兵は急ぎギブアに突入した。伏兵はそ

の勢いに乗って、町中を剣の刃で打ちまくった。

38 イスラエル人と伏兵との間には、合図が決めてあって、町からのろしが上げられたら、

39 イスラエル人は引き返して戦うようになっていた。ベニヤミンは、約三十人のイスラエル人を打ち殺し始めた。「彼らは、きっと最初のときのようにわれわれに打ち負かされるに違いない」と思ったのである。40 そのころ、のろしが煙の柱となって町から上り始めた。ベニヤミンは、うしろを振り向いた。見よ。町全体から煙が天に上っていた。

41 そこへ、イスラエル人が引き返して来たので、ベニヤミン人は、わざわざ自分たちに迫っているのを見て、うろたえた。

42 それで、彼らはイスラエル人の前から荒野のほうへ向かったが、戦いは彼らに追い迫り、町々から出て来た者も合流して、彼らを殺した。

43 イスラエル人はベニヤミンを包囲して追いつめ、ヌアから東のほうギブアの向こうまで踏みこじった。

44 こうして、一万八千人のベニヤミンが倒れた。これらの者はみな、力ある者たちであった。

45 また残りの者は荒野のほうに向かってリモンの岩に逃げたが、イスラエル人は、大路上でそのうちの五千人を打ち取り、なお残りをギデアムまで追跡して、そのうちの二千人を打ち殺した。

46 こうして、その日ベニヤミンの中で倒れた者はみなで二万五千人、剣を使う力ある者たちであった。

47 それでも、六百人の者は荒野のほうに向かってリモンの岩に逃げ、四か月間、リモンの岩にいた。

48 イスラエル人は、ベニヤミン族のところへ引き返し、無傷のままだった町をはじめ、家畜、見つかったものすべてを剣の刃で打ち、また見つかったすべての町々に火を放った。

ベニヤミン族は始めが勝利だったので、苦戦にあっても勝てると思ひ込み、それで徹底的な敗北となってしまいました。この戦いの起り方は、ベニヤミン族のギブアの人々による反人道的な罪からでしたが、彼らはそれを反省することもなかったのです。

神なき戦いの果ては、神なき敗北の悲惨です。彼らは自分たちを省みることもなく、また神に祈り悔い改めることもなく、徹底的に打ちのめされました。

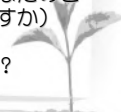
どんな状況に陥れられても、そこに至るまでにはプロセスがあります。その状況に応じて主のみこころを聞く必要があり、示されるなら悔い改め、または方向転換しなければなりません。「もう後戻りはできない!」などと人間的な思いで、がむしやりに進んでも良いことはありません。静まって、主にひれ伏して、主のみこころを聞きましょう。

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



21:1 イスラエル人はミツパで、「私たちはだれも、娘をベニヤミンにとつがせない」と言って誓っていた。
 2 そこで、民はベテルに来て、そこで夕方まで神の前にすわり、声をあげて激しく泣いた。
 3 そして、彼らは言った。「イスラエルの神、主よ。なぜイスラエルにこのようなことが起こって、きょう、イスラエルから一つの部族が欠けるようになったのですか。」
 4 翌日になって、民は朝早く、そこに一つの祭壇を築き、全焼のいけにえと和解のいけにえをささげた。
 5 そこで、イスラエルの人々は、「イスラエルの全部族のうちで、主のところの集まりに上って来なかった者はだれか」と言った。彼らがミツパの主のところの上って来なかった者について、「その者は必ず殺されなければならない」と言って、重い誓いを立てていたからである。
 6 イスラエル人は、その兄弟ベニヤミンのことで悔やんだ。それで言った。「きょう、イスラエルから、一つの部族が切り捨てられた。
 7 あの残った者たちに妻をめとらせるにはどうすればよいだろうか。私たちは主にかけて、彼らに娘をとつがせないと誓ったのだ。」
 8 ついで、彼らに言った。「イスラエルの部族のうちで、どこの者がミツパの主のところの上って来なかったのか。」見ると、ヤベシュ・ギルアデからは、ひとりも陣営に、その集まりに、出ていなかった。
 9 民は点呼したが、ヤベシュ・ギルアデの住

民はひとりもそこにいなかった。
 10 会衆は、一万二千人の勇士をそこに送り、彼らに命じて言った。「行って、ヤベシュ・ギルアデの住民を、剣の刃で打て。女や子供も。
 11 あなたがたは、こうしなければならぬ。男はみな、そして男と寝たことのある女はみな、聖絶しなければならない。
 12 こうして、彼らはヤベシュ・ギルアデの住民のうちから、男と寝たことがなく、男を知らない若い処女四百人を見つけ出した。彼らは、この女たちをカナンの地にあるシロの陣営に連れて来た。
 13 それから、全会衆は、リモンの岩にいるベニヤミン族に使いをやり、彼らに和解を呼びかけたが、
 14 そのとき、ベニヤミンは引き返して来たので、ヤベシュ・ギルアデの女のうちから生かしておいた女たちを彼らに与えた。しかし、彼らには足りなかった。
 15 民はベニヤミンのことで悔やんでいた。主がイスラエルの部族の間を裂かれたからである。

イスラエルは勝手な誓いを立てます。1つは「娘をベニヤミン族にとつがせない」というもので、それによってベニヤミン族は滅んでしまうことになります。もう1つは戦いに参加しなかった部族を殺すというものです。これらは勢いに乗って神のみこころを無視して勝手に決めたことでした。
 神なき誓いや計画は、それを強行してゆくもっと大きな過ちを犯すこととなります。イスラエルはヤベシュ・ギルアデの人々を殺し、その娘たちを無理矢理にベニヤミン族の妻として与えたのでした。
 主はベニヤミン族をさばかれましたが、そのた

めに用いられたイスラエルの民も決して主に誉められるようなものではありませんでしたから、主の祝福はありませんでした。主に喜ばれる働き人となれるように、主に祈りみことばをいただき、主の栄光となるように前進しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

